

緑友会コミュニケーション誌

FRIENDS OF GREEN

フレンズ オブ グリーン

1996年12月発行

No. 92

青森県青森市平新田森越17-1
発行人 長尾 良宣 青森県印刷青年経営者会議 義
編集人 茨城印刷緑友会



第39回 全国印刷緑友会 山梨総会

 全国印刷緑友会

山梨大会開催される

とき 10月19日(土)・20日(日)
ところ 常磐ホテル

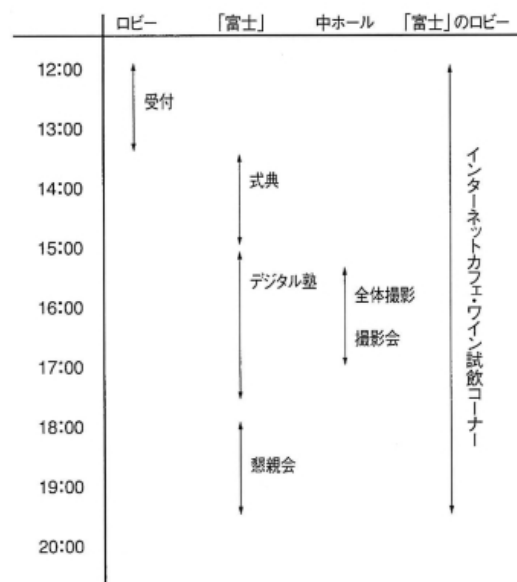
「マルチな午後」は晴天、少し肌に冷たく感じる微風が心地よい。秋とは言え紅葉には少し早い甲府は常磐ホテルで開かれた第39回全国大会のキャッチフレーズはこの日の様子を一言で言い表わしていた。式典はいつもの大会と変わらないおごそかな中にも若さみなぎる佐野竜一君の司会進行でおこなわれた。若人会幹事長の依田訓君の開会宣言に始まり国歌斉唱、井下精二君の綱領唱和、物故会員黙悼と続き、来賓紹介、参加グループ紹介とすみやかに進行した。井上雅博実行委員長の歓迎の挨拶は、今までの本来の印刷業から少し離れた世界への入口になるであろうこの大会へ参加した人々の気持ちをやさしくほぐしてくれる言葉に終始した。又、次に挨拶に立った長尾全国会長からは緑友の大会の本来の意義として「ふれあい、語り合い」の場であるという話が聞かれた。その後は来賓よりの祝辞を頂き式典を終えた。

次はこの日のメインイベント「デジタル塾」の開講である。パネラーに大日本スクリーンの郡司秀明氏、そして情報ネットワーク推進委員の3人、岡田吉生氏、白井慶吾氏、もう一人はコーディネーターとして井上雅博氏が参加し、東京と山梨の会場をインターネットで結んでテレビ会議を行った。画像はすぐつながり問題なく進むかと思われたが音声のつながりが悪く井上氏が苦勞していた様だが内容は非常にレベルが高く、マルチメディアってなに？—印刷業界はどうなるの？—という題の答えはすべて語りつくされた感があつた。

その後はおいしいワインを飲みながらのコンピューター遊び、インターネットカフェでの久しぶりに会う全国の友との語らいで過ご

した。もう一つデジタルカメラの勉強会は非常に人気が高くハイレベルな勉強をした様だが、どちらかと言うと㊟(マルヒ)な午後と呼びたい？

懇親会は前会長の利根川政明君と共に会長経験者の竹田光宏氏と城戸憲次氏が登壇し3人の乾杯でスタート。待ちに待った？我らが而立会バンドの登場である。オープニングはスモーク・オン・ザ・ウォーター。日頃デジタルの申し子のような岡田さん、棚橋さんが急転アナログ人間へと変わっていた。同世代を感じる選曲である。そしてもう一つのお楽しみ、昼間のマルヒな午後で使われたデジタルカメラが10台プレゼントされた。いつもの様に次期開催地のPRタイムの後、城戸憲次氏の万歳三唱で幕を閉じた。



山梨大会を終えて

やまなし印刷若人会
第39回全国印刷緑友会山梨大会実行委員長

井上 雅博

やまなし大会におきましては、大変お世話になりました。

「今までの「緑友の大会」とは、違う趣向でやってみよう」とみんなで話し合っただけから、約2年。二年前の大阪大会で立候補したときは、なんとかなるだろうと気軽に考えていましたが、準備を進めていくほど、不安ばかりが増すばかり。会員の多くにとっては、まったく経験のない分野への挑戦ということもあり、準備は平坦な道ではありませんでした。本当に出来るのだろうか。大風呂敷を広げすぎたかな。と思うことも一度や二度ではありませんでした。

そして今、大会を無事に終了することができ、我々の胸に残っているのは、大きな達成感と自信です。

インターネットに専用線接続されたマックintoshが30台。撮影会用にデジタルカメラが20台。300インチプロジェクターが2台。山梨の美味しいワインの飲み放題。きれいな庭園に温泉。

「マルチな午後」を楽しんでいただけましたでしょうか？

当日の様様をホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

(<http://www.mdf.co.jp/ryokuyu/>)

この大会を開催するにあたりとてもたくさんの方にお世話になりました。とりわけ、而立会バンドの方々の心暖まる友情に感謝した



と思います。彼らの励ましがなかったら、きっと挫折してしまいました。また、様々な機材、設備等をご協力いただいたメーカーの方々にも心から感謝しています。アップルコンピュータの辻さんなどは、まるで「彼は、やまなしの会員だったかな」と思う程のお手伝いをしていただきました。そして、最後に、緑友のすべての仲間へ心からの感謝を申し上げます。

Special Project

ついに
山梨大会 緑友ホームページ
オープン

<http://www1.mdf.co.jp/ryokuyu/>

あなたのページ、あなたの会社のページ、また、あなたが関わらせていただけるページもぜひ紹介してください。リンクページに登録します。

参加者コメント

やまなしのチャレンジ精神に 新たな緑友の希望が見えた

神奈川正和会 会長
佐藤 達也

「オイ、早くつながれよー」「いつまで待たせるんだ」「声が聞こえないよ〜」……。

井上実行委員長をはじめ、やまなし印刷若人会の皆さんの緊張した表情がそこにあった。皆さんはあの場面をどのように見てどのように感じましたか。まさか、「オンライン会議。大したことないな〜、これだったら呼んできてここで話した方が早いよ。」なんて思わなかったでしょうね。(アナログ依存症の発想は、常に傍観者であっても商売ができることなのです。……過去は。)

我々は、青年印刷人として……。傍観者であってはなりません。常に何事においても失敗を恐れずに挑戦していることが大切なのです。まず、やってみる。今回のやまなし印刷若人会のパフォーマンスは、ただマシンとマシンを専用線で繋いでカメラを通してお見せしたのではないのです。同じ青年印刷人が、皆さんの前で自らの力で見せたすばらしいチャレンジの証しだと僕は感じました。そして、常にチャレンジ精神をもって行き続けることが、業界や会社の発展に繋がるのです。

お金を出せば、マックは買える。でもチャレンジ精神は、なかなか購入できるお店はない。

山梨大会を感じたままに

山形印刷研修会
会田 浩平

大会当日は、運命のいたずらなのか、選挙の投票日と、日本シリーズの開幕戦と重なってしまいました。ほんの少し、落ち着けませんでしたでしたが、ロビーで、モデル撮影会を終えて興奮冷めやらぬ会員の方を見て、なぜか安心しました。美術館にミレーの絵画を見に行くじゃなかった……。

懇親会は、楽しく歓談できました。それは、名古屋の而立会バンドの皆さんが、演奏してくれた懐かしいオールディーズが、なごやかな雰囲気を作ってくれたからです。「マルチな夜の宴」にふさわしい曲で、つつい甲州名物のほうとうと、ワインをお代わりしてしまいました。

また、各イベントのPRタイムに、“最後のお願いにやって参りました。”と登場した千代田新世会、芝崎代表の勇ましい鉢巻姿に、思わず拍手を送ったのは、私だけではないでしょう。来年の記念大会が、今から楽しみです。

最後になりましたが、やまなし印刷若人会の皆さん、お疲れさまでした。メディアのマルチ化が進むほど、印刷業界の流れは様変わりします。それだけに、緑友会の皆さんとの情報交換が、大切になってきます。今までの大会とひと味違って、自ら体験し、学び、そして語り合う“ふれあいの場”を作っていました。

本当に、有難うございました。

山梨大会それは大儀い男の パソコン元年

広島青年印刷研究会

福田 信彦

やまなし印刷若人会では、大会のために MAC を数十台用意し、テレビ会議・インターネットカフェを開き自由に MAC をさわらせるらしい。最初は、なんとという大胆なことをするのだと思いました。なぜ「やまなし」には、パソコンに詳しい人が大勢いるのかと思い聞いてみると、この大会のために毎週勉強会を開き準備をされたそうです。

そこで遅蒔きながら、私も始めたいと思い、依田氏に相談すると「パソコンで何をしたいのかそれによる。」とのご返事。確かにその通りですが、これには困りました。側では見えていても、MAC と WINDOWS がどう違うのか、パソコンは何ができるのかできないのか、よく解らない。ゲームは将棋しかしたことがない。インターネットで H な画像を見るより生身の方がいい。ワープロは人差し指しか使えない。それでもパソコンをやってみたい私に、依田氏は「MAC でも WINDOWS でもいいですから、とりあえず始めてみれば。ただ拡張性のあるものを奨めます。」と後押しをしてくれる。

4月に Aptiva を購入、電源を入れガイドに従ってパソコンの練習、なんだ簡単じゃないかと思ったら大間違い。私はパソコンの言うことを聞くが、パソコンはそうではない。とりあえずやってみる性質なので、初めて使用説明書を読む。ああやったら、こうやったらで悪戦苦闘の毎日が続く。そのまま使えばい

い見積書も、気に入らないから本も読まずに勝手に改造し、失敗失敗また失敗。なんとか出来上がるが、これが皆には不評。派手に色を付けたため、如何にも高い見積に見えるそう。どうせ見積書を管理するなら受注伝票を作りそれで見積りをし、そのデータが見積書と作業伝票に同時移行できれば楽になる。また、給与計算の検算にも使えないかやってみよう。

こんな事を書けば、こまめそうだが私は大儀い（広島弁で面倒くさい）男なのだ。大儀いから楽になることに労は惜しまない。見積書・伝票・手紙等を書くのは大儀い、でもしなくてはいけないのなら楽な方がいい。その点パソコンは実に面白い玩具で、自分の知識に合わせて苦楽がある。

「やまなし」さんのおかげで新しい楽しみを、覚えさせて頂きました。全国の大儀い皆さんやってみましょう、どんどん楽になりますよ。

最後に、前日深夜までセッティングで大変だった「やまなし」の皆さん、本当にご苦労さまでした。その時私は飲んでました……。

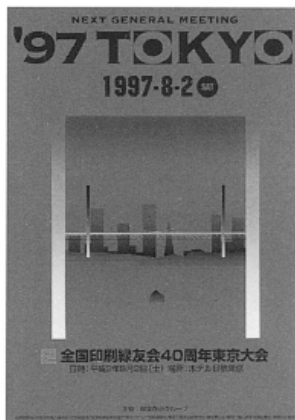
大会フォトライブラリー



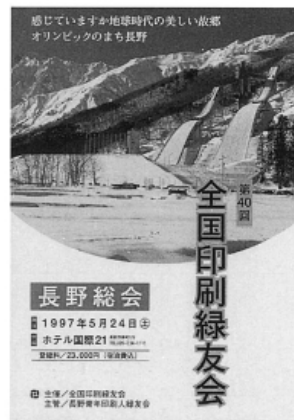




●東京大会●



●長野総会●



平成8年度 第1回 常任幹事会

平成8年6月29日
神戸外国クラブ

1. 神戸印刷若人会幹事長挨拶
2. 山形総会報告(若月氏)
登録123名32グループ参加のお礼があった。
別紙収支報告(概算)があった。
3. 山梨大会準備状況
1) 概略説明(依田氏)登録27,000円甲府駅からのバス送迎を
予定
翌朝、常任グループ長会議6:00~8:00の予定
2) 予算等詳細説明(井上氏)
登録人員250名を想定している。
機器MAC8500-30台、デジタルカメラ、富士写・アップル
一計20~30台
3) 翌日のオプションについて
①ゴルフ 10組分は手配済
②牛の丸焼きツアー 最小催行人員100名必要1人15,000
円位
4) 登録料について
①宿泊無しの場合も同一料金を予定している。
②同伴料金の設定
3)、4)項について、7月中旬頃各グループに詳細を連絡
する人。
5) 綱領唱和について
大阪青年印刷人クラブ井下氏と決定した。
4. 神戸復興支援セミナー準備状況
別紙により、タイムテーブル、予算案の説明があった。
(井下氏)
日時 平成9年2月8日(土)
場所 神戸市産業振興センター
講演 第1講 神戸市マルチメディア推進室室長
木村 義秀氏
第2講 アドビシステムズジャパン
田中 和宏氏
内容は情報ハイウェイ及び時代環境について
宿泊料は10,000~12,000円にて交渉中
他に岸氏より第1講神戸市のKIMEC 構想等の補足説明があっ
た。
復興支援に鑑み登録料はアップも含めて検討の余地がある。
余剰金は基金に組み込まず、義援金として使って買うこととし
た。
寄贈先は、震災遺児等地元グループで検討を願う。
5. 会長挨拶
(前日便濃霧で欠航の為遅れて到着)
6. 長野総会準備状況(竹内氏)
期日 平成9年5月24日(土) 登録料 23,000円
人員 130名規模を想定している。
第1次案を提出頂いたが、改選期であること、会費問題等
議題も多いと思われるので、次回常任幹事会議(9月)にて内
容試案を作成することとした。
7. 40周年東京大会準備状況(芝崎氏)
日時 平成9年8月2日(土) 場所 ホテル日航東京
会費 未定 500名規模を想定している。
コンセプトを4点とした
①従来のスタイルに拘らず、変えていく
②拘束時間を短くして、中味を濃くする
③気楽な雰囲気にする
④周年行事なので、積極的に先輩諸氏、家族の参加を心が
ける
集合時間を17時30分とし、式典、懇親会同時開催を考えて
いる。
8. 各担当常任幹事より
1) 広報 小倉氏
フレンズ・オブ・グリーンが遅れていますが、セミナー
特集号は校正中、総会号は編集中心なので2号続けて出せる
と思います。
2) 名簿 棚橋氏
名簿について各グループからの変更提出がありません。
変更無しならその旨の連絡を頼みます。
3) 東北ブロック 江馬氏
ブロック内連絡のためには、グループ数分の資料を揃え
るようにしたい。
4) 緑友ホームページ(仮称)の実験
諸説論議が交わされたが、取り合えず山梨大会でやって
みることにした。
5) その他
①7月5日 沖縄県印刷若潮会20周年
第14回九州・山口青年印刷人沖縄大会
②9月7日 大阪トップセミナー
③9月15日 次回常任幹事会議

平成8年度 第2回 常任幹事会

平成8年9月14日
ホテル日航東京

1. 会長挨拶

2. 山梨大会直前準備状況(依田氏・井上氏)

- 1) オプションツアーAの白牛牛丸焼きツアーが「O 157」騒動の煽りを受け、保健所の指導により残念ながら中止となりました。代替案として「サントリー山梨ワイナリー」見学を用意したので、ご了承を頂きたい。

(別紙一変更のお知らせ)

- 2) 9月6日現在の登録状況(OB含む)―176名
目標を250名(山梨除く)と設定しているのを、在京グループを含め多数の参加要請があった。
- 3) テレビ会議(山梨―東京)のパネラー、コーディネーターについて、会場に設置する機器の説明があった。
- 4) 式典開始時間を15分繰り上げて13時15分からと変更します。

3. 神戸復興支援セミナー準備状況(井下氏・岸氏)

講師(2名)と演題が正式決定した(別紙)。
登録用紙は、各グループへ発送済みであるが11月締めとしたい。

セミナーの補助金も含め復興支援に剰余金を「神戸新聞くすのき基金」(被災高校生支援制度)に託すこととし、登録料を考慮したので、その旨を総務幹事から各グループ長へ報告して、了承を貰うことにした。

4. 長野総会準備状況について(水寄氏)

- 1) 期 日 平成9年5月24日(土)
- 2) スケジュール 登録受付 14時より
グループ長会議・総会 15時～18時30分
懇親会 19時～21時 と決定した。
- 3) 各グループから物故者名簿を返送して貰い、当日午前善光寺にて物故者法要を行う予定。
- 4) 前日(23日)長野青年印刷人緑友会40周年行事を行う。

5. 40周年東京大会準備状況(芝崎氏・大内氏)

- 1) 実行委員会は在京9グループの各グループより3名ずつ、他に相談役3名で構成され、この中より新人ばかりで企画委員会をつくり、既成概念にとらわれないプランを検討している。
- 2) 別紙第1次案では勉強会の内容を
①技術的なこと
②会場周辺一有明ゾーンの見学
③各グループの活性のあり方
等がプランに挙がっている。
- 3) 式典、懇親会スケジュール案では、斬新さと関係方面へ

の気配りの問題、各グループとの交流促進を計る設定等について意見が出され、実行委員会での検討材料にして貰うこととした。

6. 各担当常任より報告

- 1) 総 務 伊藤氏
別紙各グループ会計担当者名簿により、各ブロック内グループの詳細照合して、会計担当に連絡を願います。
- 2) 広 報 野澤氏
小倉氏病気のため、今月一杯入院の予定で、フレンズ・オブ・グリーン遅れています。
- 3) 名 簿 棚橋氏
各グループからの名簿 DATE 返信がまだ3グループのみです。他に、名古屋文化展の期間中9月28日には会場で名古屋而立会のオープン例会をしています。来られる方は気軽に参加して下さい。

7. 会費値上げについて(会長)

山形総会に説明したように財政が苦しくなっており、新年度直ぐでは総会補助金が払えない状況です。
来年の総会で語る事項だが、それまでも各グループの意見を聞きながら具体的なプランを作成したいと思っている。

8. その他

- 1) 中村氏(仙台刷親会)
当会では世の中への奉仕を考えてピンクチラシ一掃クリーン作戦を行った。
(別紙地方紙7月27日付記事)
技術革新も大切だが業界としての基本姿勢・原点を示すことも重要だと考え、実施した。以後月1回実行している。実施のための方法論として、各地の環境浄化対策委員会や県警と相談されて一緒に行われるのがよいと思います。
- 2) 白井氏(文京緑友会)
緑友名簿のクリーニング状況をみても、1ソースマルチユースとはいえない。早くDBとして活用出来るようにしたいですね。
- 3) 岸氏(神戸印刷若人会)
40周年記念行事参加へのお礼の言葉があった。
- 4) 逸見氏(刷友青山会)
会長選任方法について今までのやり方のみでなく何か新しい方法を考えていけないだろうか。

※最後に東京大会式典会場を視察して散会とした。

行事報告

（東北青年印刷人連絡協議会秋田大会）

平成8年9月21日22日の両日にわたり東北青年印刷人連絡協議会第38回秋田大会が、主管秋田県印刷経営青年部会副主管に秋田印刷緑友会並びに秋田市印刷懇話会のもと、東北各県はもとより東京・熊本などから約100名の青年印刷人が参加をいただき、秋田キャッスルホテルに於いて開催されました。

総会に先立ち来賓の秋田県印刷工業組合高橋理事長からは東青連の歴史を踏まえた祝辞を、全国印刷緑友会の長尾会長、全青協の樋口議長よりは青年印刷人の連帯の重要性を旨とする内容のご挨拶をいただきました。総会では秋田県印刷経営青年部会柿沼会長が議長を務め、一年間の経過報告を承認頂き次期開催を青森県営業士会の主管と決定して無事終了することができました。休憩時間をはさみ行なわれた「印刷業界生き残りクイズ」は、講演やパネルディスカッションでは途中退席者が多くなるのではとの声に、スタッフがアイデアを絞り出した結果、地元のテレビ・ラジオで人気の司会者と綿密な打ち合わせを行い、参加者全員

が難問にチャレンジしていただきながら最後まで楽しんでいただけたことと思います。また、懇親会には秋田県印工組より多くの役員をはじめ、ジャグラ秋田支部の青年部会長などの出席もあり、予想以上の成果を上げることができました。

翌22日にはチャリティーゴルフコンペを行い、特別ルール（2パット以上1打につきペナルティー）にて集めさせていただいた募金を、地元福祉団体へ寄付させていただきました。

私たちにとって東青連秋田大会の開催は、業界がまさに大きな転換期にさしかかっている時期に、東北はもとより全国の青年印刷人が一同に集い、業界の現状について共通認識ができたことこそ、今後の業界発展に大きな意義が有ったことを確信するとともに、今後青年印刷人としてたゆまず研鑽し続けなければならないことを実感し、来年の青森大会へは一周り大きくなった（肥り過ぎとは違った）姿で参加したいと決意しております。

（トップ印刷人セミナー）

大阪青年印刷人クラブ（井下精二会長）主催の「第31回トップ印刷人セミナー」が9月7日、神戸市北区の有馬グランドホテルで開催され、約80人が参加した。

今回は世界初のデザイナーのためのマッキントッシュマガジン「MdN」を出版した猪股裕一氏と大蔵省出身でパナソニック社長江口隆氏を講師に招き青年印刷人の大きな飛躍を図った。



講演は二講開かれ、猪股裕一氏の「現在のメディアと今後のメディア」と、江口隆氏の「日本経済の動向とデジタル革命～パソコンは企業の生産性をいかにして向上させるか～」が行われた。

猪股氏は、「インターネットのホームページで、日本語で入力されたものはバイト数の違いから、（日本の

JIS規格は二バイト、欧米のASCⅡコードは一バイト）欧米で見られる場合には、文字化けをして何か分からない」と意外に気が付いていないところを鋭く指摘した。

第二講の江口氏は「人類は三つの革命を経験している。一つ目は鉄の鋤による農業革命でこれにより人口が三倍に増加した。二つ目は蒸気機関による産業革命でこれによりイギリスは世界中に植民地を持つことになった。三つ目はパソコンによるデジタル革命」と現代の動きを歴史的視点で説明し、その後「これにより情報の共有で、意思の決定に変化がおこっている。また、デリバティブ（コンピュータを使った金融取引）により、数年間で数千億円の利益を上げる企業が出てきた」と現状を解説した。



ピンチはチャンス

神戸印刷若人会 日新堂印刷(株) 岸 徹

いろいろな場所で、いろいろな人達と、新しい年を迎えられたことと存じます。

丸2年が経過しましたが、この時期になると、あの忌まわしく、また恐ろしかった阪神・淡路大震災を思い出さずにはいられません。また、全国印刷緑友会のメンバーの方々から温かいお言葉や多額の義援金をいただき、全国に数多くの仲間が支えてくれていると心強く思ったことが昨日のこのように思い出せます。

鉄道や道路はほぼ復旧し、観光客も戻りつつあります。昨年の秋には、地元神戸のプロ野球チーム・オリックスが日本一になり、市民を喜ばせてくれました。

しかし、今もなお自宅再建のめども立たず、約3万8千世帯、約7万2千人が仮設住宅などでの生活を余儀なくされ、高齢者の孤独死が後を絶ちません。また、色々な業界の中小・弱小企業が震災後、会社を再建したものの力尽き倒産するといったことが数多く見られたのも現実です。

企業は、昔から環境適応業だといいますが、会社経営を継続させるためには、現在、また数年後の会社のあるべき姿を考え、組織を活性化させながら社会環境の変化に対応できる組織を作る努力をしなければならぬということだと思います。しかし、阪神・淡路間の企業は、一瞬にしてその環境が激変してしまったのですから、今までの知識や経験だけでは、会社経営を継続させていくのは困難だったような気がします。経営者の決断力、実行力、統率力を集中して、しかも瞬時に対処していかなければならなかったのではないのでしょうか。

我々の業界だけにとどまらず、あらゆる業界でもバブル崩壊以後、環境の変化が色々な形で出てきているようです。

これまでの印刷業界は、メーカー主導による装置産業として、商品をお客様に提供してきただけのように思います。それは、お客様の価値観（市場の常識）ではなく、我々の価値観（業界の意識）で商品を納めていたのではないのでしょうか。今日のように情報伝達に対して、お客様のニーズが多様化してきている現在、

一つ的手段として納めてきた印刷物という接点だけでなく、会社の組織能力を高めることによって、いくつもの接点を持ってお客様の価値観を見いだしていけるような商品を提供しなければならないと思います。

例えば、生物界では小さな生命ほど環境の変化に弱いので、進化を繰り返さなければ存続できません。我々も市場の常識をいち早くとり入れ、組織的な学習をしながら、組織内の人達や経営者もふくめ、役割や責任を自覚した上で自らの個性や才能を伸ばしていくように組織の新陳代謝を繰り返していかなければならないのです。

しかしながら、我々の業界のように小規模な組織では、資本金、人材力が乏しく、資本を集中投下するにも人材教育するにしても時間がかかりすぎ、急速に多様化してきているお客様のニーズに応えられないといったこともあるでしょう。それならば、応急対策として優秀なプレーン作りをし、ネットワーク化を早急に行い、マルチメディアプロデューサーとなって、今後必ず参入してくる資本金や人材力が豊富な異業種、言い換えれば、お客様の価値観で商品を納めることができる業種と戦っていくべきなのです。そうしないと、今後エンドユーザーとの直接的な商取引が行えず、中間業者からの発注でしか商取引ができなくなるかもしれません。

今、変わらなければならない時が来ています。我々の地域では特に、このような急激な環境の変化に対しても、ラグビーの試合のように、色々なテクニックを使いながら前に前に行くことを考えて、日夜邁進していかなければならないと思います。まさに“ピンチはチャンス”なのです。

次号の担当は

江馬 康雄さん(仙台刷親会)
高速美術印刷(株)
仙台市若林区六丁の目西町6-15
TEL 022-288-5221
FAX 022-390-1005